

学校経営の基本的な考え方	総合自己評価	総合学校関係者評価
<p>【1】スクールミッション(目指す学校像)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「人ありて技術」を教育理念とし、先進技術を含めた高い専門力を身に付けさせ、心身ともに健全で調和のとれた人間性を目指す学校 ○ 多様な選択科目が設定された教育課程により、国公立大学を含めた進学や、専門性を活かした就職が可能なハイブリッドな工業教育を目指す学校 ○ 広い視野を持ち、本県や日本、国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材の育成を目指す学校 <p>【2】グラデュエーション・ポリシー(目指す生徒像)</p> <p>「人ありて技術」の教育理念の基、情報技術をベースとした専門高校として、豊かな心・確かな学力・専門的な知識・技能の向上に努め、将来を担うスペシャリストの育成、地域産業を担う人材の育成、人間性豊かな職業人の育成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に考え行動し、自己教育力をもつ生徒 ○ 仲間と協力し、健康で心豊かな生徒 ○ 豊かな感性を持ち、文化や技術を創り出す生徒 	3.2	3.4

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント
1	<p>生徒の人間力育成・学力向上</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立</p> <p>・あいさつ・時間厳守・校内清掃の専心・健康・安全第一</p>	<p>○生徒の健康・安全面については、保健主事・養護教諭を中心に、全職員がかかわって迅速に対応できている。</p> <p>○清掃の取組みは概ね良好だった。個人のゴミ持帰り運動、ゴミの分別活動、清掃用具の管理等全て美化委員会を中心に取組みを進めた。</p> <p>○各学期の終業日に、美化委員会を中心に校外の美化活動を実施した。</p> <p>○容儀指導の規制を緩和したが、大きな問題はなかった。</p> <p>○交通立番指導を場所・時間を分けて行った。職員から協力を募って行った。</p> <p>●骨折等の傷害報告が増加傾向にある。ちょっとした転倒等で手指骨折等が見られる。運動経験や食生活等、見直す事が必要であると感じている。</p> <p>●個人のゴミ管理が徹底できていない部分が若干みられる。</p> <p>●校内の美化、緑化活動は事務部の協力が必須である。</p> <p>●SNSの利用の仕方については、継続した課題である。社会の変容と本校生徒の実態をしっかり把握しながら、今後の校則の在り方を考えていきたい。</p> <p>●交通立番指導は、通学時の事故防止のために継続したいが、時間外勤務でもあり、今後の課題である。</p>	3.1	3.4	<p>○ゴミの管理について、高校生の間にはしっかりと意識をもつことは「自分の手を離れれば後は知らない」という無責任な風潮も見られる中、非常に良いことだと思います。</p> <p>○銀麗祭で訪問した際、校舎内の掲示物や教室内等整理整頓されており、敷地内もゴミなどは見受けられず、美化活動が充分行き届いていると感じました。</p> <p>○高校で骨折等が増加傾向なのは不思議な気がします。あるいは幼少期や小学校の頃に転倒した経験が少ないのかと思ったりもします。</p> <p>○SNSは若い人たちにとって、切っても切れない生活の一部になっていると感じます。全てを禁止することは難しく、SNSとどのように適切につきあっていくのか社会全体で考えていく必要があると思います。</p> <p>●交通立番指導に協力された職員の皆様、お疲れ様でした。一方でこのような時間外の対応は、教員の労働環境の見直しの中で実施していくことは今後ますます難しくなっていく、書かれているように今後の課題であると思います。</p> <p>○制服の見直しなど出来ることから生徒の意見を取り入れていくことは学校側の開かれた姿勢を示すとともに生徒の自立性を育てる上で良いことだと思います。</p> <p>○挨拶について、ほとんどの生徒が挨拶してくれます。</p> <p>○文化祭、評議員会等で、生徒と接する度に元気な挨拶をいただき感心している。</p> <p>○学校訪問時、廊下ですれ違う際に、生徒の皆さんは明るく挨拶をされていました。普段からされているのが伝わり、雰囲気が良いと感じました。</p> <p>○銀麗祭のクラス展示においては、企画立案から当日の運営まで、生徒自らで行い、文化祭を心から楽しんでいる感じがした。</p> <p>○自立・主体性について、生徒会活動、文化祭の取り組みなど生徒が取り組むことができるのは、職員の方々が、挑戦させてみよう、何かあればサポートするという環境ができてきているからだと思います。生徒の方々が、成功体験を積み上げることで、更に伸びていくので将来が楽しみです。</p> <p>○学んだことの振り替えりは、進学、就職しても必要な習慣です。PDCA が自分の力でできるようになれば結果が出て、意欲向上にもつながりますので継続的にご指</p>
		<p>2 思いやりの心、望ましい人間関係の醸成</p> <p>・HR活動の充実(自立・協調を意識した場の仕掛け)・学校行事の工夫(生徒主体による企画・運営、学科別集会等)・特別支援学校との交流活動</p>	<p>●○1年生に他者への配慮に欠ける言動が友人を傷つける場面や、美化意識の欠如から教室環境に課題が見られたため、2学期に「1学年生活向上キャンペーン」を実施した。「自分と相手がかともに幸せになる行動を心がける」という点で学年全体の一体感がある指導を行い、生徒の意識が向上した。</p> <p>○生徒総会は各委員会で生徒会中心に行った。生徒会が、自分たちの公約をもとに提案を行った。その他学校行事はできるだけ生徒主体に企画・運営をするよう指導し、概ね良好な状態である。</p> <p>○生徒会の要望を受け、制服にポロシャツを導入したり、自動販売機の販売時間を撤廃するなど、校則見直しをおこなった。</p> <p>○年間3回の各学科別集会を設定し、学科の帰属意識高揚を図った。</p> <p>○ものづくりを通じた地域貢献を目的に、県立みやざき中央支援学校や近隣の保育施設と連携して課題研究を実施した。生徒たちが製作した「掃除用補助器具」や「ボール投げゲーム機」、「迷路ゲーム機」を贈呈した。</p>	3.2		
		<p>3 授業の積極的参加</p> <p>・授業改善・適正な評価及びフィードバック</p>	<p>●○学期1回実施する授業アンケートにおいて、授業アンケートと同時に生徒の学習への振り返りを実施した。授業態度は概ね落ち着いているものの、新1年生は本校生らしい授業態度に成長するまでに、年々時間がかかっている。また学力は二極化しつつある。</p> <p>○テストまでの10日間(テスト期間を含める)に生徒の自立学習調査を行い、目標設定とその振り返りをおこなった。自ら立てた目標に対して約4割の生徒が満足した学習をすることができている。満足出来ていない生徒も次のテストに反省を活かそうという振り返りができていた。</p> <p>●対外模試の結果を活かし、生徒の学習への意欲喚起と学力向上につながるような取組をしていきたい。</p> <p>○電子機械科は令和6年度入学生より、カリキュラムを改変した。新設科目「ロボット制御技術」・「選択実習」に変更した。実習内容検討委員会で座学と実習のつながりを検証し新カリキュラムでの充実を図りたい。</p>	3.2		

<p>4 資格・検定取得、コンクール等の積極的参加 ・課外指導・さくらタイムの充実・広報活動による推進</p>	<p>○【進路】朝課外の内容を昨年度見直し、今年度計画通り実施した。課外時間数は減らしたが、3年生の合格・内定率に影響はなかった。</p> <p>○【国語科】「ヒブリオバトル」の県代表や「ものづくり川柳」優秀賞など、各種コンクールに参加し上位入賞を果たした。</p> <p>○【英語科】実用英語技能検定(英検)の2次面接対策をALTを交えて年3回行った。</p> <p>【電子機械科】</p> <p>○計算技術検定3級に1年生80名が受験し71名が合格した。</p> <p>○基礎製図検定に2年生78名が受験し55名が合格した。</p> <p>○技能検定3級(「機械検査」・「普通旋盤」)に29名が受験し、22名が合格した。</p> <p>【情報技術科】</p> <p>○基本情報技術者試験に20名、応用情報技術者試験に1名、ITパスポートに1名が合格した。</p> <p>○ジュニアマイスター顕彰制度の、ゴールドを7名(特別表彰1名含む)、シルバーを3名が取得した。</p> <p>○グランプリ受賞</p> <p>【通信工学科】</p> <p>○1年:第二級陸上特殊無線技士・情報技術検定3級、2年:第二種電気工事士・工事担任者(第2級デジタル通信)を全員受験した。また上級資格である第1級陸上特殊無線技士や第一種電気工事士を受験する生徒がおり、第一種電気工事士に合格した。</p> <p>○資格試験はCBT方式での受験が可能になり、部活動の大会や学校行事を避ける形で受験ができるようになった。また、生徒の習熟度に応じての受験もできるようになった。</p> <p>●CBT方式のデメリットとして、受験日の自由度があるため、受験日や可否結果の把握が難しくなった。</p> <p>○資格検定の受験対策として、SKTと授業内容に配慮して指導を実施した。</p> <p>【産業デザイン科】</p> <p>○各種ポスターコンクール等での上位入賞があり、表彰式にも参加した。夏休みだけでなく、年間を通して公募へチャレンジするよう促していきたい。</p> <p>●2年生がillustratorクリエイター能力認定試験を受験、合格率50%と低かった。今回取得できなかった生徒は3年次に再度受験する機会を設ける予定である。試験直前の追い込み対策をする必要がある。</p>	<p>3.2</p>
<p>5 部活動の充実 ・自治活動によるリーダーの育成(キャプテン会・部活動生集会)</p>	<p>【生徒指導】</p> <p>○部活動紹介を全学年対象に体育館で行った。全校生徒の部活動理解につながった。</p> <p>●部活動に係わる集会をあまり開くことができなかった。生徒の自主性をさらに促せるようにしていきたい。</p> <p>全国大会規模の主な実績</p> <p>・エコカー部 2024エコデンレース全国大会 <単3充電電池40分間レース> 優勝</p> <p>・電子機械技術部 全国ロボット競技大会(栃木大会)に出場</p> <p>・情報技術部 情報オリンピックや気象観測コンテスト等に参加し、敢闘賞・選考委員特別賞を受賞した。</p> <p>・通信技術部 ジャパンマイコンカーラリー2025全国大会 Cameraクラス 優勝</p> <p>・テニス部 全国高校総体出場 男子ダブルスベスト8、国民スポーツ大会佐賀大会 男子ダブルス4位</p> <p>・ラグビー部 全国優勝した九州選抜チームや西日本選抜チームに選出された3名が活躍した。</p> <p>・弦楽部 宮崎県高等学校総合文化祭 器楽・管弦楽部門 全国大会選抜賞</p>	<p>3.2</p>

	<p>導をお願いします。</p> <p>○資格・検定取得が目標の1つとなり学習意欲向上につながっているのではないのでしょうか。</p> <p>○CBT方式で、受験日、受験回数制限がなくなり、取得できる資格・検定の種類も増やせますので試験対策も合わせて、資格取得の幅を広げていただきたい。</p> <p>○子ども達を取り囲む環境や社会・経済情勢の変化等により、カリキュラムの改変などこれまでと違う対応を求められることと思います。教育現場の皆様、本当に御苦勞様です。</p> <p>○学力は本人次第の要素が大きいかと思いますが、目標設定や振り返りの実施など、学校側として生徒の内面に対しての尽力と取組みを行っているのが感じられます。</p> <p>○各資格・検定については、正直難易度は分かりかねますが、資格・検定に挑戦や取得することで、知識だけでなくその分野において生徒が興味を持ち、引続きの学力向上やエキスパートとしてのやる気に繋がっていると思います。</p> <p>○記載にあるような様々な資格・検定を取得できることは専門高校である貴校の強みであると思います。生産年齢人口の急速な減少が見込まれる中、貴重な社会の担い手であり、今後とも取組を期待いたします。</p> <p>○多くの生徒が、資格・検定取得に向けて努力していることに感心した。</p> <p>○エコカー部の優勝は本当に素晴らしい結果だと思います。先生方の知識と経験を活かして、生徒たちが挑戦することの大切さを学び、自信と誇りをもつことができたと思います。</p> <p>○部活動においては、新聞やニュースでもよく取り上げられているのを見ます。各分野非常に活躍されていると思います。外部指導者等の問題もあるかも知れませんが今後、多くの生徒の活躍を楽しみにしております。</p> <p>○貴校の部活動については、テニス部の活躍をよく報道で拝見しておりましたが、エコカーやロボット競技など技術部門でも全国的に優秀な成績を収めていることを知りました。まさに専門高校である貴校の強みであり、今後とも御活躍を期待します。</p> <p>○エコカー部や男子テニス部などの活躍には驚かされた。他の部活動においても、懸命に取り組んでおり、非常に評価できる。</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	6 読書活動の充実 ・朝の10分間読書、図書委員会の活性化	○副担任の協力のもと、朝の読書を滞りなく実施できた。 ●「年間一人あたり平均貸出冊数」は、0.4冊減の3.7冊であった。更なる広報活動の充実を図りたい。 ○展示の充実を図り、来館者の増加につながった。(552人増の5745人) ○県立図書館による「ひなた電子図書館」のIDを生徒・職員に配布した。 ○図書委員による文化祭のボードゲーム大会やPOP展示を開催した。 ○情報の充実のため、宮日新聞データベース、VRゴーグルを2月に導入を予定している。	3.0		○若者の本離れが増えてきています。本を読むことで知識も広がり、想像力も高まりますので、文庫本でもデジタル書籍でもいいので文字に慣れ、読書をするのが苦にならないように強化して頂きたいです。 ●本を読む習慣はとても大切だと思います。知識や語彙力の向上だけでなく、コミュニケーションにも幅が広がるのではないかと思います。既に実施されているかも知れませんが、お薦めの本等の紹介など図書委員を中心としての活動を期待します。
	7 家庭との密な連携	○各行事の保護者への案内について、紙・安心メールの2本で行い、連絡を徹底することができた。	3.0		

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者評価	学校関係者コメント	
2	教師の指導力・専門性向上	1 授業力向上 ・自己研鑽・授業参観期間の相互参観・生徒による授業評価の活用・ICT教育の充実・研修会への積極的参加・南九州工業高校連絡協議会(南工連)による情報交換会・安全教育	○前期6/4(火)~6/18(火)、後期10/16(水)~11/1(金)に、全職員研究授業期間として実施し、授業力向上および、授業改善に努めた。 ○学期1回は授業アンケートを実施し、授業に関して生徒からフィードバックをもらい、授業改善に努めた。 ○南工連では、県外工業高校と進路指導の情報交換ができ、今後の繋がりをつくることができた。南工連のネットワークグループができれば、日常的に情報交換が期待できる。 ○工業部会主催の安全教育研修に各学科1名(4名)参加し工業教育者として企業の安全教育を直接学んだ。 ○工業部会電気系分科会主催の職員研修会に1名参加し、都城工業高校で高圧実習装置の取扱に関する研修を受けた。 ○(公社)全国工業校長協会主催の2024夏季講習会に職員2名が参加し、工業技術センターで溶接の効果的指導方法を研修した。 ○令和6年度高等学校DX加速化推進事業(DX/ハイスクール)に採択(全国1010校、県内12校)され、生徒の学習環境の整備をおこなった。次年度も継続申請中である。	3.1	3.4	○この重点項目全体を通して、教員の皆様が自身の能力向上を図るとともに、生徒に細かく心を配ることや、進路についてともに考えることなどに真摯に取り組んでいるということが伝わってきました。 ○特に「不登校対策事業」のSC制度の活用によって、進路変更生徒の減という目に見える成果が得られたことは評価されるべきことだと思います。 ○県内だけでなく、県外においても注目されている工業高校だと思います。引き続きリーダー的存在として色々な取り組みを継続して欲しいです。 ○生徒の悩みにおいて、早期対応への積極的な取り組みがされている。相談できる体制づくりに、これからも努めていただきたいと思う。 ○Googleなどのツールを活用について、良い取り組みだと思います。 ・生徒が悩みを打ち上げやすい環境を用意されている ・先生の集計時間が減った分、生徒と向き合える時間が増える。 ●生徒の悩みを聞く、対応を考える先生たちの負担もあります。先生のサポート体制はあるのでしょうか。 ○特性を持った生徒が多様化する中、非常に難しい問題だと思います。その中でも、早期発見の取り組みやカウンセリングの実施など、きっちり対応されていると感じます。 ●生徒は新しいものを取り入れるのが早く、SNSを使いたいじめは表面化しづらいので、対応が難しいとは思いますが、いじめが起きる前にSNSは便利ではあるが、使い方を間違えるとリスクもあるので、定期的な教育や情報配信をされた方がよろしいのではないのでしょうか。投稿した人も罪に問われる、発信した情報は消えないなど ●SNSの利用方法は本人の意識と物事に対する危機感の欠如によることもあるとは思いますが、引き続き早期発見と根気強く指導をお願いしたい。 ●SNSの利用については、本人の意識なく色々な犯罪等に巻き込まれる恐れもあり、被害者としてではなく加害者ともなりうることも考えられる。難しい問題ではあると思いますが、引き続き指導をお願いしたい。 ●SNSについては若い人たちにはなくてはならないものとなっていますが、反面「闇バイト」の入り口になるなど危うい面も持っており、生徒達にSNSとの適切な付き合い方を考える機会を設ける必要があると思います。 ○ハラスメントは受け取る相手側次第であり難しい場合もありますが、日頃のコミュニケーションと信頼関係も重要だと思います。課題が発生し、迅速にキャンペーンを行う対応は素晴らしいと思います。	
		2 生徒理解力の向上 ・日常における教師間のOJT・外部講師による校内研修会の設置	○今後のキーワードとなる「合理的配慮」について、中間テストに期間中に職員研修を行った ○年間を通して、対応が必要な生徒に関する教科担任会などの会議を開催した。	3.2			3.0
		3 生徒の悩みの早期発見、迅速対応 ・日常の声掛け、観察・情報共有・いじめアンケート・LHR活用(人権教育)・特別支援教育(通級指導)	○教育相談部や保健室が連携し、面談や声かけを年間を通して定期的に行い、生徒の悩みの早期発見に努めることができた。重い状況の生徒への対応は、教育相談委員会で審議し、迅速に対応を行った。 ○正副担任による生徒全員を対象とした教育相談を毎学期実施した。日常的に教育相談部と保健体育部との連携を密に行い問題の早期発見に努め、毎月開催のカウンセリング委員会、学期毎の全職員対象の生徒状況報告によって情報共有を図った。また、問題の早期解決を図るため、本年度から始まった県の「不登校対策事業」で配置されたSC(スクールカウンセラー)制度を活用し、早めのカウンセリングを行った。その結果担任との連携に若干の課題を残すものの進路変更する生徒を大幅に減らすことが出来た。 参考 昨年度進路変更生徒 13名 本年度 // 3名(内1名は一昨年度よりの休学者) ○「通級による指導」は加える教育課程で行っており、現在対象生徒が2年生1名である。周りの適切な配慮等により安定的高校生活を送っているため実施時数は少なく済んでいる。 ○いじめ・スマホアンケートをGoogleFormsで行った。これまでの集計の手間が減った。 ●SNSに関する事案は解決に時間がかかってしまうので、生徒が率先して情報モラルを高められるような方法を考えていきたい。担任の共有が少し遅れたため、クラスでの聞き取りタイミングが遅くなってしまった。生徒の様々な情報を、情報共有を密に行い早期対応、支援、指導が出来るようにしていきたい。	3.0			

	<p>4 キャリア教育及びものづくり教育の推進 ・進路面談等手厚い指導、進路手引き等の活用・大学、企業等との連携</p>	<p>○2年生に企業見学を実施し、生徒の進路に対する意識を向上させた。 ○大学説明会への積極的参加を促し、校内においても個別の大学説明を実施した。 ○進路手引き(キャリアプランニング)を作成し、進路指導に活用した。 ○7月～9月に各クラス面談を実施し、10月には生徒の適性に合ったタイプの選択をおこなった。 ○「自分の高校3年間の目標とそれを達成する学び」というテーマで、進路の手引き(キャリアプランニング)やクロームブックを活用して、進路情報を収集し、整理し、発表した。(1年生) ○県外企業を知ることや、就職後のミスマッチを防ぐことを目的に、県外企業説明会を3月実施予定である。 ○神奈川県自動車メーカーである日産自動車から技能五輪全国大会の出場選手を招聘し、技能五輪のデモンストレーションを実施(3月予定)し、進路選択への意識向上を図る予定である。 ○2年生に対して半導体理解促進事業によるセミナー(企業振興課)として、宮崎大学 淡野教授から特別授業を受けた。 ○クライアントワークを授業に積極的に取り入れることで、生徒達の自己有用感と職業観が育ってきている。 ○積極的に企業や大学を訪問することで進路指導に活かすことができています。生徒一人一人に対して、より詳細なヒヤリングなどを行い、進路に対する意識を相互理解する必要がある。 ●Classi(「学校の授業・指導」「生徒の学習」のための、先生・生徒・保護者がつながる ICT プラットフォーム)に行事毎の振り返りを蓄積しているが、その蓄積をさらに生徒のキャリア学習に活かしていきたい。 ●クライアントワークは、内容を精査しながら生徒・教師ともに負担になりすぎないように調整する必要がある。</p>	3.0	<p>○将来何をしたいか、就職先&進学先で何をやるかが想像できていないままですと、入社後にGAPに気づき、早期離職となってしまいます。 様々な情報を得る、想像できなければ、目で見ると体験することを学生の時にさせていると、よろしいかと思います。</p> <p>○就職することも大切ですが、就職後のミスマッチ防止の取り組みは非常に評価できると思います。</p> <p>●技術の進化が早いので、企業から情報を提供し、学ぶ機会を与えることは大切なことだと思います。県外の企業やWEBセミナーなど活用されてはいかがでしょうか。一般常識、教養など幅広く身につけることは、社会に出た時に役に立ちますので、良い取り組みだと思います。</p>
--	------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評定	学校関係者 評定	学校関係者コメント
3	特色・魅力ある学校づくり	<p>1 進学も就職もできるハイブリッドな専門高校【目標:工業系高校国公立大学合格者数全国3位以内・就職第一希望100%】 ・個々の生徒に対する細やかな、組織による指導(トコト面倒を見る)</p> <p>2 ミックスホームルーム(1年)・他学科生徒との交流による視野の広い人材の育成</p>	<p>○進路手引き(キャリアプランニング)を作成し、進路指導に活用した。 ○7月～9月の各クラス面談を実施し、10月には生徒の適性に合ったタイプの選択をおこなった。 ○積極的に企業や大学を訪問することで進路指導に活かすことができています。 ●Classiに行事毎の振り返りを蓄積しているが、その蓄積を生徒のキャリア学習に活かしていきたい。 ●産業デザイン科の専門性を生かした就職先が少ないため、さらなる企業開拓が必要である。 【進路】 ○12月現在で21名の4年制国公立大学合格を得た。4年ぶりに九州工業大学に合格した。 ○慶應義塾大学と早稲田大学ダブル合格をした生徒がでた。 ○91.6%が就職第一希望内定であった。 ○公務員5名内定(県庁2名・宮崎市役所1名・綾町役場1名・大分県警1名)であった。 ○面接・小論・教科など個々の生徒に対応した個別指導を全職員で行い、多くの合格や内定を得る事ができた。 ●就職では学園生(高専生)を持つ企業の内定率をさらに上げていきたい。</p> <p>○全員参加をモットーに学校行事に取り組み、学科を超えた友人関係を育むことで、3年間の成長を支える土台をつくる事ができた。 ●ミックスホームルームであるので、学年と学科での情報共有を職員が常に意識しておくことが大切である。</p>	3.2 3.2 3.0	3.5	<p>○この目標全体を通して「特色・魅力ある学校づくり」のために様々な取組を積極的に行っていることがよく分かりました。今後とも、専門校としての強みを生かしながら、生徒達が自信を持って母校を語れるよう取組を進めていただくことを期待します。 ●「達成手段」の1でかなり高い目標を掲げていることに少々の驚きと、その意気やよしと感心を覚えました。結果、就職率に関しては100%とは行かないものの90%超えと評価できるものになったと思います。ただ、合格者数に関しては目標に対し達成度がいかほどであったか記載がないのが気になりました。 ○佐土原高校の魅力の一つであるハイブリッドな専門高校として進学先や就職先の更なる安定性と充実を継続して欲しいです。 ○本人に合った就職、進学に向けて、学校においても、指導、相談等に積極的に取り組んでいる。</p>

<p>3 地域とともにある専門高校 ・地域(各種団体・小中学校)との積極的関わり・社会貢献</p>	<p>○ものづくりを通じた地域貢献を目的に、県立みやざき中央支援学校や近隣の保育施設と連携し、課題研究を実施した。生徒たちが製作した「掃除用補助器具」や「ボール投げゲーム機」、「迷路ゲーム機」を贈呈した。</p> <p>○科学の祭典 2024、佐土原文化祭、九州電力グループクリスマスサイエンスフェスタにおいて、ペットボトルキャップからキーホルダー作り体験のワークショップを行った。</p> <p>○地域のイベントのポスターやチラシなどの制作協力を行った。</p> <p>○工業部として、全学科で佐土原総合文化祭等でワークショップを実施した。</p> <p>○県情報人材育成に関する2つの事業「みやデジア카데미」「ひなたデジタルアカデミア2024」に、生徒が7名参加した。3月8日の成果発表会に参加予定である。</p> <p>○匠のものづくり体験として、県内中学生20名に対して、電子機械科が本校実習室で、銅製の卵焼き器の製作実習指導を行った。</p> <p>●オンラインやオンデマンド型の講義は参加しやすいが、日時や会場が平日の校外の場合、参加や送迎が難しく、出席が難しい生徒がいた。</p> <p>●内容を精査しながら、生徒、教師ともに負担になりすぎないように調整する必要がある。</p>	<p>3.2</p>	<p>○佐土原総合文化祭などの地域イベントへの参加は、地域住民が地元の高校生と接する機会となっており、佐高生の評価は非常に高いところである。</p> <p>○地域の行事に積極的に参加していただき、たいへん感謝しております。接客も礼儀正しく、小学生などの良い見本になっています。</p> <p>○青少年健全育成大会の発表では、佐土原高校の良さが伝わった良い発表でした。もう少したくさんの小中学校の生徒に聞いていただきたかった。</p> <p>○文化祭はコロナ以降、保護者や地域の方など年々訪れる方が増加しているように感じます。生徒を含め来校者もみなさん楽しそうにされており地域住民にとっても重要な役割を果たしていると思います。</p> <p>○高校で学んでいる専門性の能力がどのように活かせるか、何を学んでおかなければいけないかなど気付きを得る機会であり、将来の目標が描け、選択肢が広がり、勉強の意欲向上につながるのを継続して実施いただきたい。</p> <p>○TV会議ではなく、実際に会っての交流が実現したことは非常に素晴らしいことであり、継続して交流を続けた結果であると評価します。</p> <p>引続き海外交流を行いグローバルな人材育成を期待します。</p> <p>○グローバルな交流の機会を与えておられ、学生さんも積極的に参加されています。将来、グローバルで活躍したいという夢を持つ人材が多く輩出されることを期待します。</p> <p>○これからの若い人たちには海外へ目を向け視野を広げていくことが求められていると思います。貴校では台湾や韓国の工業高校との交流などが活発に行われていることが分かりました。今後とも継続的な取組を期待します。</p> <p>○宮崎公立大との連携協定の締結は、グローバル人材の育成に大いに期待できるものと考えられる。</p> <p>○宮崎大学工学部との連携協定の締結は、高校生の視野を広げ、進路に対する意識や意欲を高めるのに、大いに効果があるものと考えられる。</p>
<p>4 地域の素材・人材の積極的活用 ・大学、企業、県工業技術センター、県、市町村等</p>	<p>○OPTA研修として、校内で企業講話(デンサン・キャン)を企画し、希望した保護者19名が参加した。</p> <p>○県の職業能力開発協会からものづくりマイスターを招聘した。生徒は国家資格(技能検定)の筆記および実技の指導を受けた。</p> <p>○県の事業のICT 体感塾に応募し、地元企業からVRやメタバースなど最新技術について講義を受けた。</p> <p>○人権、情報モラル、心肺蘇生法、薬物乱用防止、防災、性、消費者講座、DXなど、年間を通して各分野の機関の専門家を講師として招聘し、講義等を企画し実施した。</p>	<p>3.0</p>	
<p>5 グローバルな人材育成 ・東勢工業高級中等学校(台湾)、安山工業高校(韓国)との交流活動推進(短期留学費:同窓会より一部補助)</p>	<p>○5月に台湾の姉妹校である、台中市立東勢工業高級中等学校の生徒・職員25名が来校し、本校生徒は国境を越えた交流を大いに楽しんだ。3月には本校生徒2名が15日間の短期留学をする予定である。</p> <p>○9月に韓国安山工業高校の生徒・職員18名が来日し、本校で姉妹校締結を行った。本校保護者の協力を得てホームステイを実施した。12月には本校生徒8名が体験留学をした。3月には2名が9日間の短期留学をする予定である。定員より多くの申し込みがあり、留学に対する意識が確実に高まっている。</p> <p>○羅東高級工業職業学校(台湾羅東市)の運動系部活動生と教職員・保護者40名が来校し、本校部活動生と交流を行った。</p> <p>○応募・審査を経て選ばれたグローバルクラスメートプログラム(日米の高校生約2000人が参加する Kizuna Across Culture による)でライブビデオ交流(週1時間のオンライン授業)を行った。また、クラスの生徒1名が、グローバルクラスメートサミットに代表(日本代表8名の内の1人)として選抜され、オンラインで参加した。</p> <p>○今年度合計15名の生徒が短期海外留学をした(姉妹校12名、県の事業利用3名:いずれも台湾・韓国)。</p>	<p>3.5</p>	
<p>6 高大連携 ・宮崎大学工学部、宮崎公立大学及び九州工業大学との連携強化</p>	<p>○6月に宮崎大学工学部と連携協定を締結した。大学での締結式には保護者24名、職員3名参加した。工学部の説明や施設見学会もあり、保護者は大いに満足していた。</p> <p>○7月に宮崎公立大学と連携協定を本校会場で締結した。締結式時は公立大学に短期留学していた中国蘇州大学の学生15名と公立大学の教職員5名の計20名が来校し、本校生徒と交流を行った。</p> <p>○九州工業大学から助言をもらい課題研究に取り組んだグループがあった。</p> <p>○宮崎大学工学部と高大連携(機械系)の一環で、本校生徒1名が宮崎大学で行われた「工業高校生のためのインターンシップ-機械系工業高校生のための授業体験-」に2日間参加した。</p> <p>○DXハイスクール事業で、宮崎大学工学部教授による画像認識の実習体験を実施した。新しい技術の体験は生徒の知的好奇心の醸成に役立った。</p> <p>●次年度は異なる分野の講師招聘も計画したい。</p>	<p>3.5</p>	
<p>7 セーフティプロモーションスクール ・学校安全推進校</p>	<p>○『生活安全』『災害安全』『交通安全』の3領域に関する各種行事を、各校務分掌で計画的に実施した。外部専門機関とも連携を図り、生徒にとってより現実的な取組みとなった。</p> <p>○SPS 認証校として2期目の更新認証を受けた。</p> <p>●SPS 認証に伴い『学校安全コーディネーター』の継続的な養成が必要である。</p>	<p>3.2</p>	

番号	重点目標	達成手段	○:成果と●:課題	自己評価	学校関係者 評価	学校関係者コメント
4	入学者定員 確保	1 学校からの情報の発信 ・体験入学、オープンスクールの充実 ・高校説明会戦略 ・HP、インスタ、Youtube、Xほか	○体験入学には65校、中学生529名、保護者395名の参加(昨年63校、436名)。事務作業の簡略化に努め、生徒個票は当日配布した。滞りなく、行事を遂行できた。95%以上の中学生が「満足した」とアンケートで回答した。 ○オープンキャンパスを中学1,2年生対象に実施した。中学生119名、保護者95名の参加があった。参加者の内訳は1年生15%、2年生61%、3年生24%だった。終了後のアンケートでは98%の生徒が満足していた。 ○OPTA新聞第65号の制作を行い、各学科、部活動などの取り組みを発信することができた。 ○学校HP、インスタグラム、Youtube、Xなどの情報は、随時更新を行って情報発信に努めた。 ○佐土原地域自治体「さどわら便り」に佐土原高校からのお知らせを毎号掲載し、本校の活動状況を発信した。 ○産業デザイン科独自の体験ツアーを企画し、実技指導などを行った。受講者の多くが、本学科受験に繋がっている。	3.2	3.3	●佐土原高校の定員充足状況を把握しておりませんが、どのようになっているか気になるところです。 ○少子化の中で生徒を確保することは今後ますます難しくなっていくのではないかと危惧される場所ですが、地道に活動を行っていきしかないと考えています。 ○「達成手段」の4について、DVD、パンフレットともに見やすさを重視し、簡略化を図ったことは評価できるものと思います。TikTokに象徴されるように中高生は長い動画を見ることは好まないと思います。パンフレットについても詳しい内容はHPに誘導するようにしたのは良い見直しだと思います。 ○定員確保は昨今、重要な課題の一つだと思われます。色々な分野で活躍すればするほど、敷居は高くなるように思われるかも知れませんが、より優秀な人材確保とともに多様性と可能性を秘めた生徒へのPR活動は充分評価できると思います。 佐土原高校での大きな飛躍と成長を学校と生徒に期待します。
		2 メディア戦略 ・マスコミの活用	○本校の各取り組みや成果については、年間を通して県教育委員会のホームページに掲載するプレスリリースをはじめ、各メディアや新聞社に対して情報発信を行った。多くの内容が取り上げられ、県民や地域への良き発信となるとともに、学校内でも良い雰囲気醸成につながっている。	3.0		
		3 部活動の強化 ・強化指定部(テニス、ウエイトリフティング)他・生徒用住宅拡充要請	○県立学校運動場整備事業の一環で、株式会社いちごからの多大な支援を受け、テニスハードコート2面が完成した。 ○通学が困難な遠方出身者の部活動生徒用住宅について、市営小牧台住宅に加えて、市営久峰住宅を確保することができた。 ●部活動生徒用住宅に居住する生徒に対して、地域住民からの苦情やトラブルはなかったが、地域活動の積極的参加や一部食事に関するボランティアの方々へのさらなる配慮を検討中である。	3.2		
		4 学校紹介パンフレット ・学校紹介DVDのリニューアル	○学校紹介DVDも令和6年度用にリニューアルした。前年度が10分であったが、説明を簡略化し7分にした。本校学校紹介DVDは毎年好評である。 ○学校紹介パンフレットをリニューアルした。詳細な説明はQRコードからHPを参照するようにし、見やすいパンフレットを目指し簡略化した。中学生に分かりやすい内容にするともに、デザインをイラスト調に一新した。産業デザイン科3年生の有志で制作した。	3.2		